

令和4年5月20日

学園関係各位

学校法人 木村学園
理事長・学校長 木村 誠

令和3年度(2021年度)
学校法人木村学園事業報告

「昨年度状況」

令和3年度は令和2年度より世界的に感染拡大した新型コロナウイルスへの対応が続き、再度の緊急事態宣言や蔓延防止重点措置の発令もあった中、学園ではコロナ対策委員会を中心に学内感染防止対策に努め、校内感染ゼロを達成致しました。学校教育では対面・遠隔を併用した授業展開を行うハイブリッド教育により大きな混乱なく授業を計画通り遂行することができました。2020年より計画している学校法人木村学園中期事業計画(令和2年度～令和7年度(創立80周年))を更に深化させるべく令和7年に向けた学園発展の「3スクール計画」の策定を行いました。学園創立80周年までの行動目標を明確にしていまいりました。

「教育」

IT・エレクトロニクステクノロジーをはじめとした技術の高度化とグローバル化、及びAI×ロボットにつきましては、電子工学科の技術支援のための顧問を依頼し、ロボット開発についての実習を強化すべく調査研究を行いました。2022年度からは学生を中心としてロボットを作るという内容で授業を計画しております。

全員実践技術修得、全員プロ資格取得につきましては、各学科とも無事全学科で資格取得を達成いたしました。

K.I.S.S.(Kimura academy Integrate Solution System)の構築、産学共同研究室につきましては、情報エンジニア科と協力しつつ、次世代の学習環境にふさわしいシステムに必要な要件を検討してまいりました。今後は検討した内容の実現に向けて動いていきたいと考えております。

ITを中心に3学科の再構築につきましては、情報エンジニア科はもとより、電子工学科に関してもプログラミング技術の向上に向けた教育カリキュラムを充実させてまいりま

す。電気設備科はドローンなどのIT機器を用いた施設点検手法を実習に組み込むことを検討しております。

国内外の教員研修については、電子工学科はトランジスタ回路の設計・評価技術について、電気設備科は高圧電気取扱者安全衛生特別教育を、情報エンジニア科はAIプランナー入門を受講しました。各学科とも授業のカリキュラム向上のために必要な研修内容を受講しました。

企業様のご協力によりさらにプロ技術教育の深化については、学校関係者評価委員会および教育課程編成委員会で頂いたさまざまなご意見を中心に、カリキュラムの検討を行っております。

適切なAO入試により優秀な志願者を選考するための新たなアプローチとして、試験内容についての検討などをおこないました。今後も引き続き検討してまいります。

***情報エンジニア科**

K.I.S.S.の構築について、AI・ロボット時代のエンジニアの教育基盤として相応しい機能を盛り込むように計画し、業者との打ち合わせを進めています。本校が目指すAI・ロボット時代の教育に向けて、情報エンジニア科ではAI等の先端教育強化などを進めてきました。AI教育については以前よりAIプログラミングの科目を実施してきましたが、一部の学生には非常に難しいようでしたので、エンジニア系各コースの必修科目から選択科目に変更しました。今後は、学生にとって身近な利用事例を中心として学習できるような教育内容を目指し、教育内容の検討を続けています。卒業後社会人となる学生を指導する教育機関として、技術だけではなく社会人としての人格形成にも力を入れてきました。責任感をもって行動することを折に触れて指導しています。安全技術については、セキュリティの徹底を指導しています。今年度も新型コロナウイルスによるオンライン授業／ハイブリッド授業を実施しました。ZOOMに習熟したシステム担当教職員から各教職員に運用方法を伝達し、オンライン授業・会議を円滑に運営しました。

全員資格取得について、エンジニア系・デザイン系ともに目標資格の設定および学習・受験のスケジュールを早めに作成し、各学生に合った資格の選定と指導を行いました。大学編入を希望する学生について、数学・英語教育に力を入れて志望校合格をサポートしました。

企業ニーズの変化として、社内SEの求人がやや増加傾向にあり、社会全体としてもDXが叫ばれるなかでIT系人材が非IT系企業でも求められるようになってきました。DX人材育成を軸の一つとし、企業や社会のニーズに応えられるようにカリキュラム改善を図っていくことを計画しています。一方、学生が求めるテーマとして、eスポーツなどの教育も追加を検討しています。

***電子工学科**

今年度より、アルゴリズムの授業を追加し、ハードウェアの授業と共にソフトウェアの授業の充実を図りました。ロボット製作はおこなえませんでした。個々の作りたいロボットの製作を実施し、デナリパム様と共に初めに学生が共同でロボットを作るように計画しております。また企業と連携した実践教育につきましては三上様やデナリパムの井本様と連携を実施。家電サービスコースでは昨年度の製品の充実に加え工具等の充実も図ります。更にネットワークの授業も取得するように指導しております。資格に関しては、工事担任者に加え、第1級陸上特殊無線技士や2種電気工事士、ITパスポートの資格取得者が出ました。

***電気設備科**

電気工事希望学生の関西独占の一環として具体的には、まず他校では実施されていない低圧電気取扱者特別教育を試験導入しました。くわえて安心安全な電気工事の考えのもと、電気設備科学生全員を対象に消防署のご協力をいただき、救命講習を実施しました。

次に、認定の規定枠にプラスして広範囲にわたる電気分野のより実践的な教育指導としては、従来のボードに電線や金属管を取り付けて工事の模擬を行うという形の実習だけではなく、実際の電気工事レベルを実習に入れるために活線ボード実習を検討するために、安全確保のための低圧電気取扱者特別講習導入の検証などしました。

より現場実習としてモデルハウス実習棟建築を考えましたが、学生数の学費収入から採算性を取ることは極めて難しいことから、残念ながら計画を断念いたしました。ただ、実践的な実習のために2021年度に検証をしました。2022年度の2年生の実習にその成果を活かして2年後半に実習室の照明装置を第一種電気工事士試験合格学生(別途申請により工事をできる資格を取得できるため)が中心になった交換作業を低圧電気取扱者特別教育受講者の学生がサポートする形で実習を進めるように考えております。

最新のPCを昨春更新し電気工事のIT化教育をより一層充実して備えております。
技術革新に即応したカリキュラム構築については、教育課程編成委員会で3DCADの重要性の指摘がありました。
現在、製図担当教員を中心として、3DCAD導入に向けた検証を開始しました。2022年度も実際の教育に導入する検証作業を引き続き行っていきます。特に人格面の錬成により安全・安心の工事に資するために、消防署による校内での救命講習受講で高い安心安全意識を徹底して、安心・安全第一の技術者の育成につとめました。

「外国人教育」

留学生教育では、昨年度に続き、日本語力向上に重点をおきサポートしてまいりました。結果、日本語能力試験での合格率が全体で92%と日本語力を伸ばしております。また、日本語の環境下での勉学や友人関係作りに取り組むことで会話力の伸びも感じております。昨年度より、ビジネス日本語の授業を週1回実施し、その中で日本についての知識を深められるよう取り組んでまいりました。3月に卒業を迎えた留学生7名のうち、就職希望は6名で、1名をのぞき、就職をいたしました。本年度は11名の私費留学生在が入学し、在校留学生は計17名となりました。コロナ禍で新規の入国の見通しが難しい中、今後を見据えた留学生獲得に努めてまいりました。

「学生指導」

全員卒業に関しましては、体調不良者以外は、全員卒業いたしました。コロナウィルスの影響で、思うようにイベントを行うことが出来ませんでした。可能な範囲で実施し、イベントを通じて社会人としてのマナーや人格の育成を実施。レクリエーションや学期末パーティー、スポーツ大会などは密になり飲食を伴うことから実施することが出来ませんでした。しかしその中でも何かできることは無いか検討し、キックシャトル大会やクラス内でゲーム大会を実施。コロナウィルス感染拡大防止のために、マスクや消毒の徹底を行い、ワクチン接種の呼びかけも実施し、学生や教員から感染者は出たが、校内からの感染はありませんでした。健康のため禁煙を呼びかけましたが残念ながら全員禁煙とは行きま

せんでした。引き続き禁煙指導をしていきます。また防災面に関しては、従前から飲料水常備、停電時非常バッテリー、UPS(無停電電源装置)の設置など毎年充実させ学生の安全に配慮し安心と安全の教育環境構築を逐次進捗させました。これまで年1回避難訓練を実施していましたが、2回実施し火災と地震の避難訓練を行いました。校内にて教職員に対し障害者に対する研修を実施しました。来年度はLGBTQに関して研修を実施を予定しています。更に学生への研修に関しても引き続き実施していくように検討していきます。

「就職」

就職につきましては、学生の就活モチベーションアップを目的に、学内企業説明会を8社実施しております。更に、電業業界セミナー等、各種インターンシップに参加させ、意識の向上を実施しております。本年度は学校斡旋希望者52名の全員希望先就職を目指しましたが、最終的に留学生1名が未達成となりました。原因は、学生の就活意欲の低さと、企業と実力のミスマッチと考えております。DX推進は、2年連続のコロナ禍で、オンライン環境を整備し、Web説明会やWeb面接に対応して来ました。また、求人票を電子化することで、学生が自宅からスマホで閲覧できるようにしたことで、リモートで迅速な就活対応が可能となっております。身障者の対策は、大専各の研修会に参加し、実際の障害者が働く工場を視察し、他校の進路指導者との意見交換により、今後の方針が明確となりました。コミュニケーション力強化、プロフェッショナルエンジニア推進は、就職センターでの個別面談を中心に対話とメールによる強化を図りましたが、それでは不十分であり、プロとしての自律には未だ多くの課題があることがわかりました。

「学生確保」

新たに理系大学・学部の設立、高校でも「情報Ⅰ」の科目を必修化するなど世間のIT化の加速が背景にある中、本校ではTwitterやYoutube動画、Facebook、InstagramでのPRを実施していくことで、情報エンジニア科のIT系を中心に学生確保を行ってきた。また、コロナウイルスの影響により、外出の機会は減りリアルよりもネットでの接触が増加し、これまで紙や足を運んで得ていた情報がYouTube動画などで簡単に収集可能になっ

ており、従来のVR動画のほか学校案内動画を作成しYouTubeや媒体ポータルサイト、SNSなど多方に展開した。また説明会開催にあたり対面とオンラインの2種類を設けた。諸官庁が定める感染予防対策以上の対策を施した上で実施した。

来校者に入学時のイメージを持ってもらえるようにロビー展示スペースに各学科の在校生の作品を展示した。

競合他校との優位性確立につきましては、競合他校の減額制度状況を調査の上、弊学園もAI×ロボット時代の人材育成の一端を担うため、AI×ロボット減額制度を設けております。利用する学生も多くAI×ロボットが浸透してきていると考えております。

さらに、弊学園は今年も高等教育の修学支援制度の対象校となり、学びたい学生への門戸を広げております。

「学園コロナウイルス感染症対策」

コロナウイルス感染症が世間にまん延し始めた当初より、速やかに学内にコロナ対策委員会を設置し、以来大阪府の「感染拡大予防にかかる標準的対策」以上の取り組みを以前より行ってまいりました。更に、今年度は緊急事態宣言や蔓延防止重点措置の発令もあった中、学園園の基本取り組みとしては、世間水準・他校水準以上の対策に努め、校内感染ゼロを達成致しました。

「総務・人事」

2021年度の開始前から現在までの1年以上にわたり、新型コロナウイルス感染症対策と学内感染防止を念頭に学生・教職員の感染予防を講じた学園運営を行って参りました。教職員へのリモート用パソコンの貸与により本格的な在宅勤務体制を敷くと同時に学校機能の維持を実現いたしました。

在学生への対面・遠隔のハイブリッド授業の展開により、コロナで不安を抱える学生へはZOOMを使用したオンライン参加、一方で対面授業を受けることを希望する学生には学校教室内の感染予防対策として入校時の検温・消毒・教室内の換気を徹底した上で教育活動を行って参りました。

本校は修学支援制度適用校であり今年度申請者全員が減免制度に採用された実績があります。コロナによる家計の急変世帯や、経済的な理由で学びが困難な学生への支援とし

て、修学支援制度の利用や、学生支援緊急給付金の案内など適切に対応をして参りました。

前年度に引き続きAO入試・一般入試でより多くの優秀な学生確保を尽力し本校が推進する"AI×ロボット"教育に関わるコースも減額対象とし定員の拡充を致しました。施設改修については、9階の空調設備の一新と貯水槽設備の入替を行い、高効率設備に更新したことにより省エネ化と使用電力の削減を図っております。

人材採用について、学園卒業生の新卒者1名、第二新卒者1名、若年層教職員2名と、教育分野で10年以上の勤務経験のあるベテラン教職員1名、計5名を採用し、勤続年数が新しい教職員は14名となりました。組合所属の教職員について、情報エンジニア科の教員1名が定年退職をしたことで、次年度から次世代メンバーが業務の中心を担うこととなり、同時に次世代体制は着々と整備されています。

財政的には安全確実な資産運用を志しました。低金利、為替の変動を受けましたが、概ね目標通りの運用結果を達成しました。今後も継続して安全確実な運用を目指してまいります。

以上